

第 361 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 在宅聴取による遠隔開催
2. 番組聴取合評 [番組名] 川崎玲奈の踊るラジオシャドウ
[放送日時] 令和 2 年 5 月 22 日(金) 26:30~27:00
[出演者] 川崎玲奈
3. 出席者 [委員] 委員長 木宮敬信 副委員長 角田哲康 委員 小野晃司
委員 山本りさ 委員 服部乃利子 委員 加藤裕治
4. 番組審議
[番組名] 川崎玲奈の踊るラジオシャドウ
[放送日時] 令和 2 年 5 月 22 日(金) 26:30~27:00
[出演者] 川崎玲奈

[聴取・合評での主な意見]

加藤委員

●番組コンセプトと実際の番組の兼ね合いについて

「ピンソバ」の川崎さんを知っているリスナーに対しては、川崎さんのまた違った側面(シャドウ)について知り得る番組であると思う。(一人で番組をしているので当たり前ではあるのだが)本番組では積極的に自らが話を組み立てようとしており、その懸命さが伝わり好感度は高い。

とはいえ、「踊る」という点について、ややピンとこないものもあった。今回対象となった回について言えば、音楽は「踊っている」選曲だと感じたが、トークはどちらかといえば「踊る」というよりも、「のんびり」という気持ちになるものと感じた。結論的にいえば、本番組の「踊る」というコンセプトと、川崎さんの現時点での当番組でのあり方(キャラクター?)とのマッチングについて、議論の余地があると感じた。ただし川崎さん自身は、この時間帯に合っているキャラクターであると感じる。またシャドウを引き出そうとする各コーナー(「マウント富士」など)は、面白い試みだと思った。

●担当パーソナリティについて

声は落ち着いていて、聴きやすい。さすがだと感じた。ただし、冒頭のトークなどは緊張感がこちらにも伝わってきて、ハラハラした気持ちになった。とはいえ、そうした点もラジオの魅力であり、逆にこうした感じに、親近感や共感性を抱くリスナーもいるかもしれない。今後、次第に慣れてきた際には、また違ったものになると思う。「ピンソバ」では落ち着いていて、冷静な感じの川崎さんとはまた違った側面が感じられる番組なので、その点は「シャドウ」というコンセプトと合っていると思う。

いずれにせよ、パーソナリティとしての魅力は十分あり、高いポテンシャルを持っていると感じる。この番組を通して、パーソナリティとして様々な可能性を試していくのが良いと思う。

●良かったと感じた点と、改善の必要があると感じた点

繰り返すが、川崎さんの声質や語り方から言っても深夜との相性は抜群である。またトーク内容も深夜にゆるゆると聞く感じで、パーソナリティの雰囲気と合っている。とはいえ「踊る」という番組のコンセプトが、どれほど感じられたかという、やや議論の余地の残るものであった。

方向性として川崎さんが番組コンセプトに合わせていくことでテンポやトーク内容にして「踊る」のイメージを作り上げていくのか、あるいは川崎さんらしい「踊る」を生み出していくのか、またそもそも「踊る」ではない方が良いのか、という点など、幾つかの方向へと番組のあり方が開かれていると感じた。

●具体的な提案やアドバイスがあればお願いします。

コミュニケーションの言葉だけに頼ると、感性や気持ちの言葉だけになってしまい、番組中にも発言があったように「言葉が出ない」という状態になってしまうのではないかと。様々な情報や知識の蓄積が多くあるほど、コミュニケーション性も高まると思う。

そのためモノ、サービス、趣味など、なんでも良いので、自身で調べた知識・情報を話しながら(=説明、解説しながら)、それをリスナーとのコミュニケーショントークへと結びつける試みやコーナーがあってもよいかもしれない。それがまた、パーソナリティの「シャドウ」に結びつく可能性もあると思う。

角田副委員長

●番組コンセプトと実際の番組の兼ね合いについて

・深夜番組ということだが、「深夜」の良さがはっきりしなかった。過日のナイナイ岡村氏の番組とは異なるが、この時間帯ならではというオシが弱い。この部分を意識していることは分かりますが…。

調べても良く分からなかったのですが、収録はどんな時間帯に行っているのでしょうか。公式 Twitter での彼女の番宣も見ましたが、「この時間帯だからできる内容。だから聴いて欲しい」感は伝わらなかった。Radiko でも良いという前提ならば(もちろんそう語ってはいないが)、時間帯自体を意識させる必要もないし、それを伝えられないのは「技量」ということになってしまう。

・上述したことを繰り返すことになるが、「踊る」、「シャドウ」の部分がはっきりしない。選曲の部分に「らしさ」は少し感じられたが、冒頭の 2:50 まで、そして 7:20 あたりまでの、少し「シャドウ」を意識した喋りは、怪我ネタの連続で、オチが落ちず、とてつもなく長く感じた。この後に「踊る」感が期待できる人(既にリスナーになっている人)以外は、偶然聴いたら7分近くが我慢できるのかと感じてしまった。

・結論として、番組コンセプトと実際の番組には、少なくとも今回は、乖離があると感じた。

●担当パーソナリティについて

・定型文、リスナーからのメールを読む部分は、明るくそして彼女らしさが伝わってくる。しかし、番組構成として作られた部分、ネタとして用意された部分の読みは、気持ちが伝わらない、そして読んでいる感が強くて、不自然な感じがした。実体験に基づいている部分(家族から届く荷物の話)などは、声のトーンも明るくなり、自然な喋りで、その情景が目には浮かぶが、それ以外の部分は「スタジオで読んでいるだけの姿」が浮かんでしまう。

・実際にこの時間帯に収録、そしてリスナーが聴いているかは別にしても、時間帯を感じさせる喋りの技術、そしてそれを含めた表情力(あえて表現力とは言いません)が感じられるようになることを期待します。ラジオだからこそ、声と言葉に「表情」が必要だと思います。音(喋りの技術だけ)で「伝える」ことだけを意識しすぎかもしれませんね。

・方言のことに触れていましたが、関東の人という割には、少なまっていますね。本人は気付いていないかもしれませんね。「自分は標準語」という視点から、疑いをもたずに話しているので、この方言の話は伝わってきません。ちょうど今週は講義でソクラテスの「無知の知」について話したので、余計にそう感じてしまいました。

・Twitter の映像を見ると、ラジオ番組では感じられない魅力が溢れる人でもあります。今後の成長に期待したいと思います。

●良かったと感じた点と、改善の必要があったと感じた点

・時折聴くことができた彼女の明るさ。これが良かったと思います。

・彼女の思い込みを、もう少しスタッフが手伝って改善できればと思います(上述した点です)。

・「Candyman」の選曲は良かったですね。ラジオ番組なので、できれば番組の中で曲についての話を聞きたかった。ラジオ番組として新しい取り組み(他の媒体と組み合わせる)ことは必要ですが、肝心の彼女の喋りをもっと楽しみたいと思います。選曲は彼女が「伝えたい思い」のはずですから…。

・これも前述しましたが、最初の7分間あまりの時間。これは構成を見直した方が良いと思います。「番組リスナー」は番組に対する「踊る」気持ちが削がれると思います。「彼女のファン」は別かもしれませんが…。番組を好きなリスナーもいますから。今回は怪我ネタ紹介でしたが、そこから話の発展性がなくつまらなかった。この部分は、スタッフがテコ入れした方が良いと思います。

●具体的な提案やアドバイスがあればお願いします。

・(収録がライブでなければ)現実的には難しいと思いますが、深夜番組ということならば、ライブでリスナーとのやり取りが聴きたいですね。昔ながらの良さも現代風にアレンジして、ライン、チャットでの生のやり取りが「音声で再現」できれば面白いのではないのでしょうか。リスナーの部分は、誰か他の人に読んでもらう。たとえ収録であっても、双方向的なやり取りで、彼女を「イラツと」させる感を音で再現したら面白いと思います。こうした生の様な「双方向通信」ができないのでしょうか。この方が彼女の良さが出てくると思います。まだ寄せられたメールへの返しが弱いので、上手く喋れない状況や深夜番組ならではの「ハラハラ感」を作った方が面白いと思います。

●その他、質問など

・番組のコンセプトは HP で確認できましたが、パーソナリティ、スタッフの工夫点、意向も簡単に添えられていると、番組の理解がし易くなると思います。

小野委員

●番組コンセプトと実際の番組の兼ね合いについて

番組コンセプトは「掴みどころがない」と感じた。

●担当パーソナリティについて

声質は聞き取りやすいが、独特の「気怠さ」と「馴れ馴れしさ」を感じる語り調子が気になる。

●良かったと感じた点と、改善の必要があると感じた点

リスナーからの反応が妙に上から目線(女王様の)に聞こえるが彼女の個性なのか、それが売りなのか。

リスナーからのメッセージを受けて立つという気概は伝わるが、彼女のコメントが送った側と聞く側がどう伝わっているのか反応が気になる。

●具体的な提案やアドバイスがあればお願いします。

ピンソバでのバカボン鬼塚さんのペースやムードをつくれるパーソナリティとのコンビであれば生きるが、単独でリスナーとの駆け引きには少し無理があるキャラクターに感じる。特にマウント富士は強気に出ようとするあまり空回り感がある。

●その他、質問など

「踊るラジオシャドウ」とはどんな意味なのか知りたい。

服部委員

●番組コンセプトと実際の番組の兼ね合いについて

・川崎玲奈さんがマイペースでトークしているのは、番組冒頭から感じます。

独り言風で始まり、彼女の「私」感が強く見えますので、ファンにとっては彼女がとても近い存在に感じられていると思います。

・踊るように、というコンセプトは、内容がバラエティに富んでいて楽しさ・面白さを感じる、ということだと思いますが、今回のようにコーナーメインの場合、リスナーからの内容とメッセージに左右されると感じました。

リスナーからの内容だけでなく、そこからどれだけ世界を広げられるかだと思います。

持っているチャンネルを駆使して受け答えできるスキルには、経験が必要ですので、もう少し時間が必要かなど。

●担当パーソナリティについて

・2年目で一人番組を回していくのは、大変だと思いますが、よいチャンスなので頑張ってください。

・バカボンさんの時には見えていなかった彼女のキャラが見えました。案外いろんな顔があるんだな、と楽しみです。

●良かったと感じた点と、改善の必要があると感じた点

・声が良いですね。とても聞きやすい。

夜中の番組を意識して？なのか、トーンが少し低めで落ち着いた感がありながら、滑舌良く、耳に心地よく響きます。

リスナーさんからもありましたが、品も感じられますね。

●具体的な提案やアドバイスがあればお願いします。

・もう少し語彙力が豊かになると良いですね。

嬉しい、ありがとう、の気持ちを伝えるにも、違う表現があるはず。語彙が豊富になれば、リスナーへの対応力へのアップになると思います。

・声がとても素敵なので、声そのものを活かせるコーナーが作れたら良いですね。

(詩？歌？朗読劇？ショート漫画？)

山本委員

●番組コンセプトと実際の番組の兼ね合いについて

今回を聴く限りでは、「自分の好きな音楽についてマイペースにトークする」についてはよくわかりませんでした。「日常のささやかな出来事についてマイペースにトークする」という点については、コンセプトと合っていたと思います。「日中にタイムフリーで聴いても心から笑える拠り所となる番組」かどうかについては、あまりそうとは感じませんでした。

●担当パーソナリティについて ●良かったと感じた点と、改善の必要があると感じた点

川崎さんの声はとても落ち着いていて聴きやすいと思いましたが、30分を一人でもたせるのは大変そうに感じました。そして、川崎さんが「ラジオの前で踊るように楽しみましょう！」と言っていたのですが、個人的には踊るように楽しめる感じはありませんでした。

ただ、リスナーのツイッターの反応をみると、「めっちゃ楽しかった」「あっという間の30分だった」というコメントもあったので、このまま変える必要はないのかもしれませんが。

●具体的な提案やアドバイスがあればお願いします。

曲について、曲名も選曲の理由も何も語られることもなく、いきなり曲が流れていたような気がしましたが、削除されていたのでしょうか。

もし川崎さんの好きな音楽を選んでいるのであれば、選曲の理由をゆるく語ってくれたら楽しいかもしれませんし、番組のコンセプトにも合ってくるのかもしれませんが。

木宮委員長

●番組コンセプトと実際の番組の兼ね合いについて

コンセプトでは深夜番組であることを踏まえ、普段の川崎さんと違った側面を出したいように感じるのですが、実際の番組はこれまでの川崎さんの延長になっているのではないのでしょうか。そもそも番組コンセプトが分かりにくいですね。リスナーの多くがピンソバから流れてきていると思われ、違う側面ではなく、ピンソバのスピノフ的な番組として期待しているのではないかと感じます。川崎さんのツンデレ的な魅力を押し出すような番組になればと思います。

それを踏まえると、番組コーナーにも一貫性がないように思われます。また、週1回30分番組にしては、コーナーが多すぎるのではないのでしょうか。

●担当パーソナリティについて

フリートークは昨年と比べて落ち着き(余裕)が出てきていると思われ、ゆったりとしたスピードは好き嫌いが分かれるかと思いますが、それが川崎さんの個性(魅力)とも言えるでしょう。ピンソバでも川崎さんの魅力が随分伝わるようになってきたように感じていました。

●良かったと感じた点と、改善の必要があると感じた点

最初のBGMが長いのではないかと思います。

番組中にかけた2曲については、曲紹介が欲しいと思うのですが…

●具体的な提案やアドバイスがあればお願いします。

これまでの川崎さんの路線を継承する番組として考えるのであれば、マウント富士のコーナーは良いと思う。

できれば、リスナーのメッセージがマウントを取ったのか取れなかったのか、点数化するなどして評価してみてもどうでしょうか。(マウント度 ○○点など)

ピンソバのスピノフ番組(コーナー)も必要があると思いますが…

●その他、質問など

番組の企画等は本人発信でしょうか？

ミレニアルバブルから生放送のつながりができれば面白いとも思いますが、時間的に難しいのでしょうか？

会社サイド

前回(第359)回では新人鈴木愛実の落ち着きや安定感に評価を頂いた一方、ナレーションのメリハリが少ない点などについてご指摘頂きました。今後の番組作りに反映させ、改善するようにいたします。

次回開催日 在宅審議を予定

以上

番組審議会委員長

木宮敬信